

# 「倉敷市の教育行政・学校現場の今」からみる 「今後の川崎医療福祉大学に期待する教員養成」

倉敷市教育委員会 学校教育部 指導課  
指導主幹 城井田成美

このたびは、「川崎医療福祉大学教育シンポジウム」の開催、誠にありがとうございます。  
また、このような場にお招きいただきましたことに、感謝申し上げます。

本日、先生がたの御発表を拝聴し、特別な支援を要する児童生徒を念頭に置いた通常の学級の授業づくりについて学ばせていただきました。改めて先生がたの熱意あるお取組に敬意を表します。本日のシンポジウムに関わり、倉敷市の特別支援教育の現状について、少しお話しさせていただきます。

現在、少子化により学齢期の児童生徒が減少する中、全国的に、特別支援学級在籍児童生徒・通級による指導を受けている児童生徒等、特別支援教育を必要とする児童生徒の数は増加傾向にあります。昨年公表された文部科学省の調査結果では、学級担任が回答したものではありませんが、通常の学級に在籍し、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合は小中学校において推定値 8.8%となっているというニュースは記憶に新しいところかと思えます。倉敷市においても、特別支援学級・通級指導教室等の学びの場を求める児童生徒数は増加傾向にあります。また、通常の学級において、生活面・学習面等日々の対応に苦慮していると、学校から相談を受けることが増えている状況です。

学校教育においては、共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システム構の理念のもと、障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り共に教育を受けられるよう、通常の学級を含め、どの学びの場においても特別支援教育を充実させていくことが求められています。

岡山県では、今年3月に第4次岡山県特別支援教育推進プランが策定され、「就学前から高等学校等卒業後の自立と社会参加に向けた特別支援教育の充実」と「特別支援学校の体制整備」の2つを柱とした、特別支援教育の取り組むべき事項が示されました。

国や岡山県としての方向性をふまえ、倉敷市のインクルーシブ教育システムの構築を一層進めていくためには、特別な支援を必要とする児童生徒の自立と社会参加を見据え、見通しをもった支援を行っていくことが重要であると考えております。特に、通常の学級において、分かりやすい授業、多様性を尊重した学級経営を行うこと。そして、集団における授業の工夫や合理的配慮の提供を行っていくこと。その上で、通級による指導や特別支援学級での支援の必要性を検討するという段階的なプロセスを踏むことや、本人の実態に応じて特別支援学級から通級指導教室・通常の学級等へ学びの場を見直していくこと等、集団の中で共に学ぶ可能性を追求していくことが大切であると考えております。

本日御発表いただいた、ICTを効果的に活用し、画像や動画等によって児童生徒の理解を深める方法や児童生徒の思考の流れに沿ったワークシートの工夫・学習の場づくり等、支援を要する児童生徒の学び方に応じた指導方法・教材等を提供していくことや、個々の興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動を進めていくことは、今まさに、現場の教職員に求められていることであり、そのような視点をもった教職員を育てていただけることは、地元倉敷市にとっても、また岡山県にとっても、教職員の専門性や資質向上に資するものと考えております。

また、倉敷市教育委員会では、特別支援教育専門家派遣事業として、専門家スタッフ等による巡回相談を実施し、学校園の通常の学級及び特別支援学級等に在籍する発達障害を含め、全ての障がいのある幼児児童生徒への指導方法の確立を図っております。こちらでも、川崎医療福祉大学の先生にも専門家スタッフとして加わっていただき、支援体制の充実や、教職員の専門性の向上にお力添えいただいております。

大学における専門性を備えた優れた教職員の養成とともに、学校現場における大学の先生方による教職員への支援の充実を図っていくことにより、支援が必要な子どもたちへのよりきめ細やかな指導につながるものと考えています。

社会の変化により、子どもを取り巻く課題も多様化し、学校現場では困難なことも増えていくかもしれませんが、子どもの成長する力を信じ、しっかりと向き合い、指導・支援ができる学校・教職員となれるよう取組を進めてまいりたいと思っております。

今後とも、倉敷市の学校教育の推進と教職員の資質向上にかかる取組に対しまして御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、川崎医療福祉大学の益々の御発展を祈念いたしまして「教育シンポジウム」に際しましての御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。